



おいしく たのしく すこやかに



# 2025年3月期 第3四半期 決算説明会

2025年2月10日  
森永製菓株式会社

## 将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。

森永製菓株式会社

1

**高木：**皆さん、こんにちは。森永製菓の高木です。お忙しい中、決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、まず第3四半期の決算のポイントについて確認し、その後、具体的な内容についてご説明を申し上げます。

- **第3四半期累計の売上高は過去最高、営業利益は前年並みを確保**
  - 【売上高】3Q単：前年同期比106.6%、3Q累：同107.8%  
引き続き菓子食品事業・冷菓事業が牽引。
  - 【営業利益】3Q単：同100.9%、3Q累：同98.7%  
原材料等の高騰影響が一段と顕在化する中、3Q単は増収および価格改定効果により打ち返す。
- **価格改定後の動向は概ね想定通り、更なる打ち返し策を展開**
  - 9月実施の各ブランドにおいて数量影響は想定内。
  - チョコレートを中心に2月・3月に追加の価格改定を実施、カカオ高騰への打ち返しを図る。
- **通期業績は過去最高の売上高・営業利益を予想（前回予想\*1より修正なし）**
  - 【売上高】2,270億円（同106.4%）
  - 【営業利益】213億円（同105.1%）
  - 第3四半期までの実績等を考慮し、増減益要因と事業毎の予想を見直し。

本日お伝えしたいポイントについて、3つ申し上げます。

まず1つ目は、第3四半期累計の売上高は、引き続き菓子食品事業・冷菓事業が成長を牽引し、過去最高となりました。また、営業利益はカカオ関連を中心に原材料の高騰影響が顕在化しておりますが、ほぼ前年並みを確保しました。昨年11月時点の社内計画に対しては事業毎に善し悪しはありますが、売上高、営業利益とも概ね想定内で進捗しております。

2つ目は、原材料高騰に対しまして昨年9月に価格改定を実施いたしましたが、各ブランドにおいて数量への影響は想定内となっております。原材料高騰に対して、チョコレートを中心に今年2月および3月に追加の価格改定を実施いたします。

3つ目のポイントは、通期の業績予想については昨年11月に発表した予想値から修正はございません。第3四半期の実績は概ね想定内の進捗であり、大きなブレは生じておりません。原材料についてはカカオ高騰の影響がやや増加する見込みですが、販管費のコントロールや効率化、事業子会社の利益貢献増などによって打ち返し見込みとなっております。

## 2025年3月期 第3四半期累計実績



売上高は第3四半期累計として過去最高、損益は原材料等の高騰影響もありながら前年水準を維持

(単位：億円)	第3四半期累計 実績	前期比較	
売上高	1,765	+128	107.8%
売上総利益 〔売上総利益率〕	708 〔40.1%〕	+29 〔△1.4pt〕	104.4%
営業利益 〔営業利益率〕	194 〔11.0%〕	▲2 〔△1.0pt〕	98.7%
経常利益	198	▲3	98.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	136	▲3	97.3%
EBITDA*1	266	▲1	99.8%

森永製菓株式会社

\*1 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費  
\* 在外子会社換算レートは当期 1米ドル=151.29円、前期 同138.11円

4

連結損益計算書についてご説明申し上げます。

売上高が1,765億円、前年比較で128億円の増収、率では107.8%の成長となりました。売上総利益については9月実施分も含めまして価格改定効果は順調に発現しておりますが、第3四半期での更なるカカオの高騰、円安を伴うコスト増を全て打ち返すには至らず、粗利率は若干低下いたしました。増収により粗利額は増益となりました。

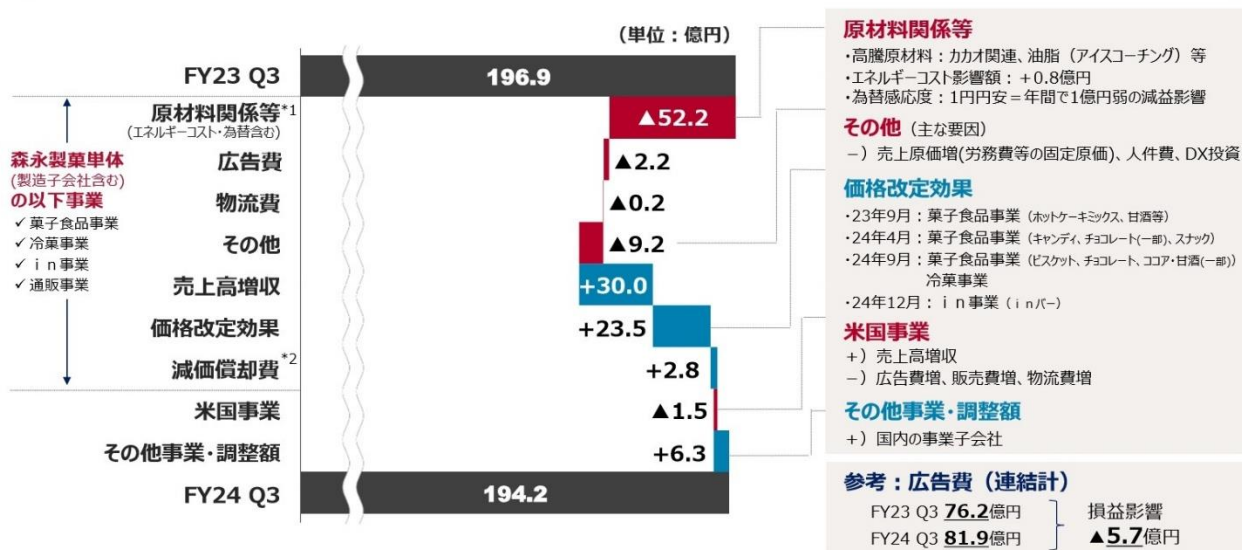
一方、販管費につきましては、広告投下、DX、人的資本等の関連費用等が増加しましたが、販売費の効率化、増収に伴う固定費の吸収などによりまして、販管費率は改善いたしました。

これらの結果、営業利益を始めとした各段階利益は、原材料高騰の影響を受けながら、ほぼ前年の水準を維持することができました。

## 2025年3月期 第3四半期累計実績：営業利益増減要因



原材料等の高騰影響が一段と顕在化する中、増収及び価格改定効果により打ち返す



森永製菓株式会社 \*1 FY24 Q3の実績調達レートは 1米ドル=149.35円、FY23 Q3は同135.80円 \*2 売上原価計上分のみ

5

次に営業利益の増減要因です。減益要因を赤色、増益要因を青色で記載しております。

まず、円安影響も含めた原材料関係の高騰影響によるコストが、前年同期と比較しまして52.2億円の増加です。原料はカカオ関連、油脂などの影響が中心です。また、この内数としまして、円安の進行により約10億円弱の減益影響を受けております。これらの影響を主に増収と価格改定効果などによって打ち返しを図っております。

## 2025年3月期 第3四半期累計 実績：事業別サマリー



### 菓子食品・冷菓事業が増収を牽引、食料卸売が大きく利益貢献

(単位：億円)		売上高			営業利益			営業利益率	
		実績	前期比較		実績	前期比較		実績	前期比較
食料品 製造	菓子食品事業 <sup>*1</sup>	622	+41	107.2%	32	▲4	89.2%	5.3%	▲1.0pt
	冷菓事業 <sup>*1</sup>	404	+32	108.6%	46	▲5	88.9%	11.4%	▲2.6pt
	i n事業 <sup>*1</sup>	252	▲1	99.6%	65	+4	106.5%	25.8%	+1.7pt
	通販事業	86	+5	105.8%	3	▲2	69.2%	4.2%	▲2.3pt
	事業子会社等	78	+8	111.5%	2	▲0	91.9%	3.2%	▲0.7pt
	国内計	1,445	+86	106.3%	150	▲7	95.2%	10.4%	▲1.2pt
	米国事業 <sup>*2*3</sup>	164	+16	110.7%	26	▲2	94.6%	16.4%	▲2.8pt
	中国・台湾・輸出等	70	+12	120.2%	6	▲0	94.4%	9.0%	▲2.5pt
	海外計	235	+28	113.4%	33	▲2	94.6%	14.2%	▲2.8pt
	小計	1,680	+113	107.2%	183	▲10	95.1%	10.9%	▲1.4pt
	食料卸売	64	+14	127.8%	10	+8	366.9%	16.1%	+10.5pt
	不動産及びサービス	14	▲0	97.2%	6	▲0	96.1%	44.9%	▲0.5pt
	その他	6	+1	112.7%	1	+0	102.7%	22.0%	▲2.2pt
	調整額等				▲7	▲0	—		
	合計	1,765	+128	107.8%	194	▲2	98.7%	11.0%	▲1.0pt

森永製菓株式会社

\* 当社グループの経営管理の実態を明確に表示するため、2025年3月期より区分・集計方法を変更。2024年3月期の数値は当該変更を遡及適用し、変更後の区分・集計方法により作成したものを記載。  
\*1 i nブランドを冠したキャンディ、チョコレート等の商品は菓子食品事業、アイスは冷菓事業に含む \*2 中国・台湾の米国向け輸出に係る利益を含む \*3 現地通貨ベースの売上高前期比は101.0%

6

事業別の業績を見ますと、引き続き主に菓子食品事業、冷菓事業が増収を牽引し、食料卸売が利益貢献いたしました。

国内の菓子食品事業では、キャンディおよびチョコレートは価格改定後も数量は増加して好調を維持しており、増収を牽引しております。一方、チョコレートを中心にカカオ関連の高騰の影響を受けておりまして、営業利益率はやや低下しております。

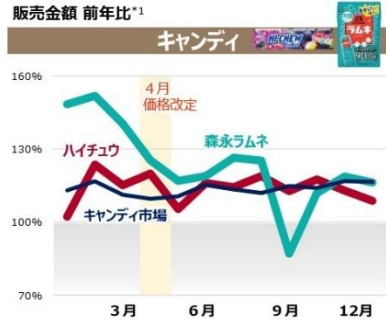
冷菓事業については、市場全体を上回る伸長となりましたが、こちらも原材料等の高騰影響によって収益性はやや低下いたしました。

海外事業の売上は、円安効果もあり高成長を継続しました。為替影響を除いた現地通貨ベースでは、米国事業は前年並みとなりました。事業成長のための戦略的なマーケティング投資などの関係で若干の減益となっております。

食料卸売では、カカオ原材料のコストアップに対する収益改善策としまして、価格改定を実施しております。そのような状況でも、主力のチョコレートおよびココアパウダーの需要が拡大したことで、販売が好調に推移し増収増益となっております。

# 国内市場のトピックス【菓子】

※直近の価格改定実施状況  
 キャンディ、チョコレート一部：24年3・4月 / ビスケット、ダース、カレ・ド・シヨクラ：24年9月



	4-12月累計
ハイチュウ	114.0%
森永ラムネ	115.2%
市場	113.6%

- **ハイチュウ**：価格改定後も好調継続  
インバウンド需要獲得も寄与
- **森永ラムネ**：受験生取り組み浸透  
購入率は継続して拡大

※9月落ち込みは、前年発売した新商品を今年は発売していないため

森永製菓株式会社 \*1 インター・JSRI+ 推計販売規模金額



	4-12月累計
森永ビスケット	100.3%
市場	106.3%

- **価格改定以降**、一時的な店頭露出機  
会の減少により前年をビハインドするも  
店頭回転は順調に回復



	4-12月累計
ダース	111.6%
カレ・ド・シヨクラ	122.8%
市場	105.4%

- **ダース**：価格改定後も店頭回転良好  
基幹品ミルク・白を中心に好調
- **カレ・ド・シヨクラ**：ハイカカオの需要増  
により価格改定後も好調継続

※9,10月落ち込みは、前年の新商品のハードルが高いことが影響

次に販売のトレンドです。

菓子食品事業では、キャンディおよびチョコレートカテゴリーは価格改定後も好調に推移しております。ビスケットカテゴリーは9月の価格改定以降やや前年を割り込んでいますが、足元では回復傾向にあり、影響としては想定内です。

## 国内市場のトピックス【冷菓】

※直近の価格改定実施状況  
主力品：24年9月



販売金額 前年比<sup>\*1</sup>



4-12月累計	
当社冷菓	109.5%
市場	105.1%

- 板チョコアイス：独自価値を訴求するTVCM投入  
購入率は継続的に拡大
- ザ・クレープ：春夏の好調実績により取扱率上昇  
コラボ品・期間限定品の発売により顧客接点も拡大
- アイスボックス：割り材としての活用訴求により需要喚起  
秋冬における取扱率も大きく上昇

森永製菓株式会社 \*1 インターJSRI+ 推計販売規模金額



4-12月累計	
チョコモナカジャンボ	96.9%
バニラモナカジャンボ	104.8%
市場	105.1%

- チョコモナカ：冬季限定品の発売や消費者キャンペーンなど  
断続的に購買喚起
- バニラモナカ：冬季限定品好評、価格改定後も堅調

※12月落ち込みは、前年のメディア露出による高いハードルが影響

冷菓事業に関しては、9月の価格改定後も、残暑の影響もありまして市場全体が堅調である中、当社は市場を上回る伸長となっております。特に、板チョコアイスやザ・クレープは品質の訴求や期間限定品を通じまして、取扱率・購入率が拡大し好調となっております。

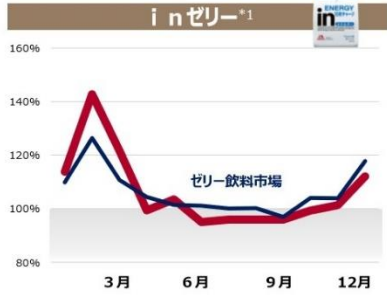
## 国内・米国市場のトピックス

※直近の価格改定実施状況

i nゼリー：22年12月、通販：23年2月、米国HI-CHEW：22年11月



販売金額 前年比



4-12月累計	
i nゼリー	99.0%
市場	102.6%

- 限定品の発売をフックに受験シーズンに向けて店頭露出を強化
- 12月中旬以降インフルエンザ感染拡大も店頭回転向上に寄与



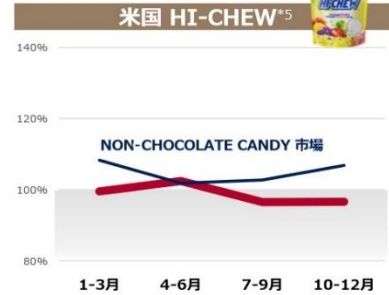
売上金額 前年比



4-12月累計	
美味しいコラーゲンドリンク	100.7%
美味しい青汁	129.7%
市場 <sup>*3</sup>	101.6%

- 節約志向・オフライン広告のCPO<sup>\*4</sup>上昇により新規顧客獲得は伸び悩み
- オンライン広告を強化

販売金額 前年比



1-9月累計	
HI-CHEW	99.5%
市場	104.2%

- コンビニチャネルの苦戦継続 売上構成比の高い当社は影響大
- 取り扱いSKU拡大や新たな販売チャネルへの取り組みは着実に前進

※Circana(旧IRI)データのカバー範囲 HI-CHEWの売上高に占めるカバレッジは約50% (当社推定)

森永製菓株式会社

\*1 インターSRI+ 推計販売規模金額 \*2 当社出荷金額、総務省統計局 家計調査「健康ネット通販」支出(データ公開日の都合上記載は11月まで)  
\*3 2024年4-11月累計 \*4 CPO (Cost Per Order) …顧客獲得単価 \*5 Circana(旧IRI)データ

9

i nゼリーは前年同期並みとなりました。受験シーズンに向けた限定品をフックとした販売施策は好調です。12月中旬以降はインフルエンザ感染拡大による後押しもあり回復傾向です。

通販事業は美味しい青汁は好調でしたが、美味しいコラーゲンドリンクは前年並みとなりました。

米国事業の HI-CHEW は、主力のコンビニエンスチャネルでの消費停滞の影響を受けており、前年並みで推移しております。Food チャネルを中心とした SKU 拡大の取り組み、新たなチャネル開拓などは着実に進捗しております。足元はやや踊り場ではありますが、新工場の稼働による生産能力増強も見据えながら、営業活動の強化、戦略的なマーケティング投資や商品展開によるブランド接点の拡大に注力し、中長期的な事業成長を実現させてまいります。



## 2025年3月期 業績予想



売上高・営業利益以下の損益は前回予想\*1より修正なし  
 売上高は4期連続の過去最高更新、営業利益は最高益達成を見込む

(単位：億円)	通期予想	前期比較	
売上高	2,270	+137	106.4%
売上総利益 〔売上総利益率〕	895 〔39.4%〕	+29 〔△1.2pt〕	103.2%
営業利益 〔営業利益率〕	213 〔9.4%〕	+11 〔△0.1pt〕	105.1%
経常利益	217	+7	103.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	167	+16	110.2%
EBITDA*2	313	+16	105.4%

森永製菓株式会社

\*1 2024年11月発表値 \*2 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費  
 \* 当期予想の前提となる在外子会社換算レートは 1米ドル=151.58円、FY23の換算レートは同140.56円

11

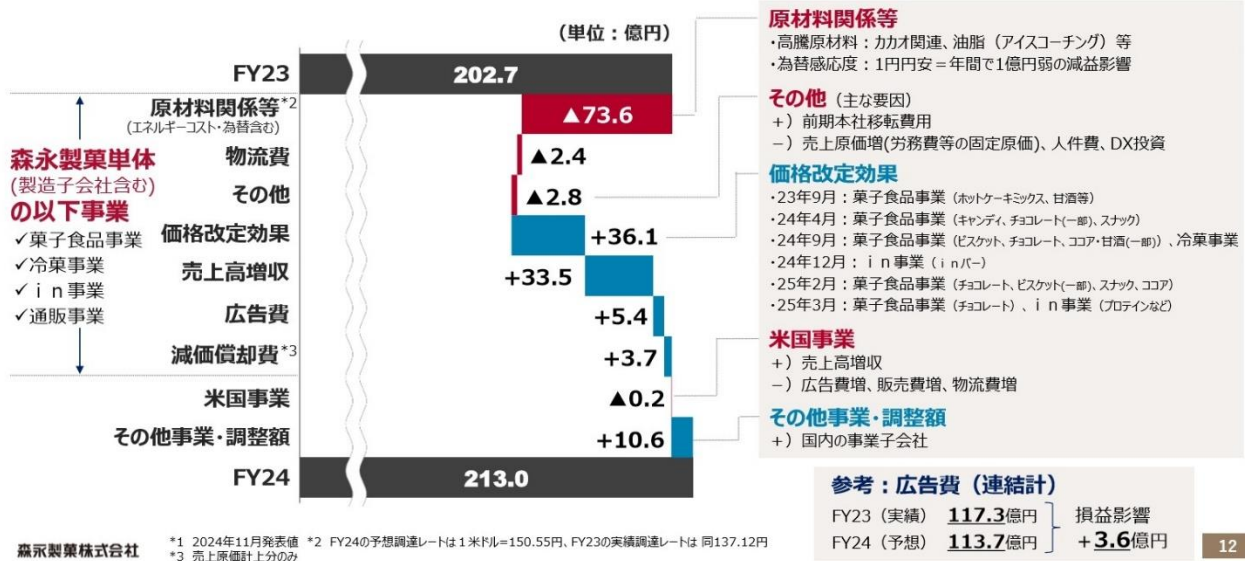
今年度の通期予想についてご説明いたします。

昨年11月発表の業績予想に対して、第3四半期の連結売上高、営業利益とも、概ね想定内の進捗です。連結ベースでの通期見込みに大きなブレは生じておりません。従いまして、売上高・営業利益以下の各段階利益の通期予想値を今回修正せず、売上高・営業利益について過去最高を目指してまいります。

## 2025年3月期 業績予想：営業利益増減要因



原材料等の高騰影響は前回予想\*1より拡大する見通しも、増収および価格改定効果、グループ会社の利益貢献により打ち返す



次に営業利益の増減要因です。

原材料関係等が更なるカカオの高騰影響を受けまして、11月時点の業績予想よりも悪化する見込みで、約9億円の悪化になります。これを広告費のコントロール、物流費や販売費の効率化、事業子会社の利益貢献増などによって相殺できる見通しでございます。

今後、原材料価格の高騰、為替や不安定な国際情勢の長期化など外部環境はさらに厳しさを増していくものと考えており、今年2月、3月にはチョコレートを中心とした追加の価格改定を実施します。商品によっては改定幅も拡大させていきます。

現時点で、次年度の価格政策については発表しておりませんが、コスト増が想定される中、追加的な対応を検討する必要性が生じていると認識しております。消費行動への影響や競合等の動向を見極めつつ、戦略的に対応していく方針です。引き続き収益性にこだわった経営を志向してまいります。

## 2025年3月期 業績予想：事業別サマリー



### 菓子食品・冷菓事業が通期で増収を牽引 / グループ会社の増収増益が貢献

(単位：億円)		売上高			営業利益			営業利益率	
		通期予想	前期比較		通期予想	前期比較		通期予想	前期比較
食料品 製造	菓子食品事業 <sup>*1</sup>	835	+44	105.4%	38	▲2	94.1%	4.6%	▲0.5pt
	冷菓事業 <sup>*1</sup>	488	+35	107.5%	39	▲9	82.7%	8.2%	▲2.4pt
	i n事業 <sup>*1</sup>	317	+2	100.4%	75	+9	113.3%	23.7%	+2.7pt
	通販事業	109	▲0	99.4%	3	+1	188.6%	3.6%	+1.7pt
	事業子会社等	108	+9	108.1%	8	+4	182.0%	8.3%	+3.4pt
	国内計	1,857	+86	104.8%	165	+3	102.4%	8.9%	▲0.2pt
	米国外計	211	+20	110.2%	32	▲0	99.5%	15.3%	▲1.6pt
	中国・台湾・輸出等	91	+17	121.4%	3	▲1	72.2%	3.7%	▲2.5pt
	海外計	302	+36	113.3%	35	▲2	96.1%	11.8%	▲2.1pt
	小計	2,159	+121	106.0%	201	+2	101.3%	9.3%	▲0.5pt
食料卸売	85	+16	123.0%	13	+10	347.0%	15.4%	+9.9pt	
不動産及びサービス	18	▲1	95.2%	8	▲0	95.9%	44.0%	+0.3pt	
その他	7	+0	100.3%	1	▲0	99.9%	19.3%	▲0.1pt	
調整額等				▲11	▲2	—			
合計	2,270	+137	106.4%	213	+11	105.1%	9.4%	▲0.1pt	

森永製菓株式会社 <sup>\*1</sup> i nブランドを冠したキャンディ、チョコレート等の商品は菓子食品事業、アイスは冷菓事業に含む <sup>\*2</sup> 中国・台湾の米国向け輸出に係る利益を含む <sup>\*3</sup> 現地通貨ベースの売上高前期比は102.2%

13

事業別の通期の業績予想です。若干の修正が各カテゴリーでございます。

最後になりますが、本日開催の取締役会にて代表取締役の異動について決議いたしましたのでお知らせいたします。本年4月1日より、代表取締役社長の太田栄二郎が代表取締役会長 CEO に、取締役常務執行役員の森信也が代表取締役社長 COO となる予定でございます。

ご清聴ありがとうございました。

## 【ご注意事項】

### 将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。